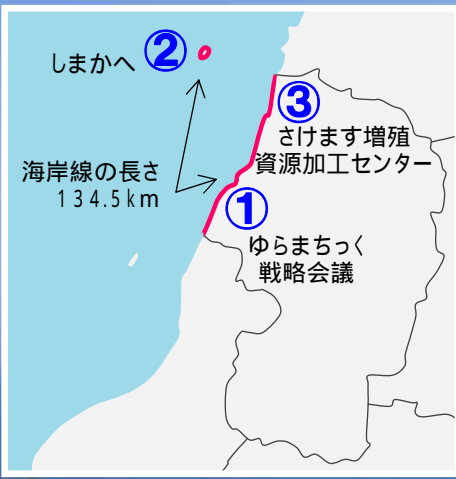


やまがたには

海がある



やまがたの棚田20選「暮坪の棚田」から日本海を望む

海のめぐみ川のめぐみ

山形県の海岸線は2市1町にまたがる約百三十四、五km。

海あり都道府県では鳥取県に次いで短く、日本の海岸線総延長の三万五千kmの0.4%に過ぎないがその海と海に注ぐ川のめぐみは豊かである。

庄内浜は、水産資源が豊富で百三十種類の水産物が水揚げされる。クロダイ、サワラ、マアジ、タラ、ブリ、スルメイカ、紅エビ、ズワイガニ、イワガキ、サザエに

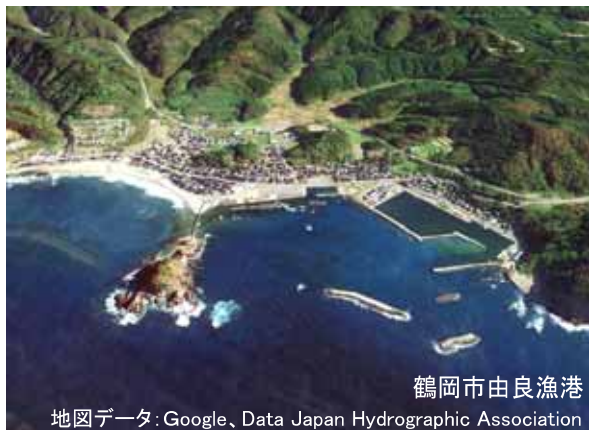
イワノリまで。四季折々、旬の地物を味わうことができる。

また、資源を守るための育てる漁業も行われている。

海と川のめぐみをいただき、その地域に活かす。そんな漁村の暮らしに触れてみよう。

今年の9月に『全国豊かな海づくり大会「やまがた」』が開催される。これを契機とした水産環境への理解促進と漁業の振興が期待されている。





海や川めぐみをもたらしてくれるのが漁村の人達で、漁村は漁業などの水産業が主体となっている村落と定義される。

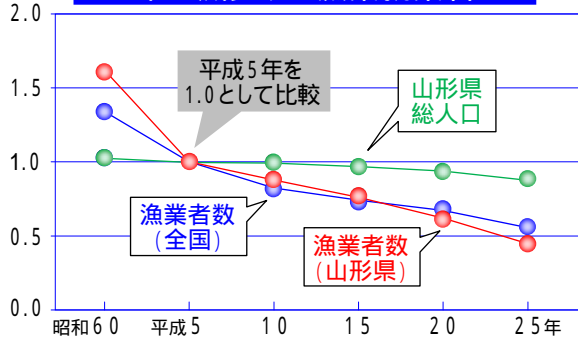
日本の場合には漁業と農業が主体の半漁半農の村落が多いといわれ山形県も同様である。

漁村には水産物を供給する役割のほか、海の安全・安心の提供、環境保全、文化の継承や安らぎの場の提供などの多面的機能がある。そこで暮らす人たちの営みの中で漁業・漁村が守られている。

漁村



年々減少する漁業就業者



日本近海は暖流と寒流が交差し多種多様な水産物が獲れる世界屈指の好漁場。水産物を世界一食べる国にもかかわらず、漁業者は年々減少し高齢化も進んでいる現状にある。

山形の海と川と漁村を守っていくため、地産地消による消費拡大、体験学習やイベント開催による理解促進に向けた活動とともに、研修制度を充実させて漁業者を増やす取り組みも行われている。

求む、新規漁業就業者

漁業就業者の高齢化

